

2014年ビアンキカップを振り返る

2014年5月30日投稿

今週、私は戦いに行ってきました。

メジャーな試合はどれも、それが運動競技か否かを問わず、そのための準備はまさに戦いに行くのと同じような状況になります。何カ月も練習し、繰り返しトレーニングをします。装備は完璧で、偶発的なプランを立て、それを合理的で確実に対応すべく、潜在的な例外に備えます。食事をし、呼吸し、眠りに就き、そしてゴールを夢見ます。そして次の日に目を覚ましたら、さらに一所懸命努力します。

写真: エリザベスクレア

分野が運動競技であれ、政治であれ、ビジネスであれ、学術であれ、これは戦士の生活です。

私の今週の戦いは、NRA(National Rifle Association: 全米ライフル協会)の全国チャンピオンシップである『2014 ビアンキカップ』で、他の優秀なシューターたちと競うことではありませんでした。私の戦いは、そのレベルにおいて、シューティングというスポーツにも、完璧なスコアを出すために限りなく追求するといったところにもありませんでした。私の今週の戦いは、私自身の中にあり、私自身の歴史(生き方)にあります。

私の通常の素晴らしさの指標に比べ、今週の私の出来は、決して最高ではありませんでした。しかし、私の経歴にある他のどの試合とも同じぐらい、今回の試合を誇りに思っています。380日前、私はここから数マイルしか離れていない病院にいました。善意ある有能な医者たちは、私がもう二度と歩けないかもしれないと知らせてくれました。私は彼らのアドバイスを聞き入れましたが、屈しませんでした。努力、訓練、強いチームと厳格に管理された戦略をもって、私はこの12カ月間を、今週のために過ごしてきました。

写真提供: エリザベスクレア

もしも状況が違っていたら、昨日の出来事を災難であったと、私は悲観していたことでしょう。私は昨日の試合で、4枚のプレートを外しました。シューティングをしてきた18年間で、これは初めてのことです。それにしても、今回の試合は今まで以上に勇気を要しました。取り返しのつかないような経験をしてしまった後、自分を叱咤したり、その時のすべての瞬間を頭の中で何度も再生してみたり、どうすることができただろうかと考えながら時間を過ごすのは簡単です。偉大な戦士たちでさえ、単に振り返り撤退してしまうかもしれません。しかし、真の勇士は、その良くある傷に包帯をし、あともう1日戦うために、戦場へ戻ります。今週という贈り物に、私は心から感謝しています。多くの人たちが、私がこの戦場に戻ることを手伝ってくれました。そして、彼らが私のことを信用してくれていることで、私自身も強さと勇気を取り戻せました。

私はまだ、去年、私のブーツがロープに引っかかっ(て転倒し)た時の感触を覚えています。私はまだ、自分が転んでしまった時の姿が思い出され、思考が生死の間を行ったり来たりしていたのが聞こえます。私はそれらのトラウマに立ち向かい、起こるべきことは起こるという運命への理解を抱きながら、文字通り向こう側から抜け出してきました。いつの日か(おそらく2015年のビアンキカップになるでしょう)、私のすべての努力と、シューティングに専念してきた年月は、ひとつの試合に現れ

、そこで私は完璧なスコアを撃ち出します。この追求こそが、日々の私を駆り立てるのです。現在、私はふたつのシンプルな理由とともに、シューティングに復帰し、それを続けています。

1.) 私はこのすばらしいスポーツで、多くの友だちができました。

2.) 私のシューティングライフは、いかなる危機やトラウマや災難をも超えられると教えてくれました。

戦いの場がどこであれ、私たちは皆、達成すべきゴールや戦うべき戦いを持っていて、そして誰もが自分の中に、小さな戦士の魂を持っているのです。

ヴェラ クー

ヴェラ クーは、アメリカ国内のアクションピistol女子の部で8回優勝しており、世界でも2回個人タイトルを取得しています。最近では、2012年9月に開催された、ドイツのNRA世界アクションピistolチャンピオンシップにおいて、女子チーム(ペアー)で金メダルを獲得しました。ヴェラは、1999年以来、アメリカのアクションピistol射撃チームに所属していることを誇りに思っています。また、スポーツシューティングに対する愛情とともに、文化的な期待にも応えられるよう挑戦しながら、アスリートとして競技を行うことへのプレッシャーを分かち合うことに、情熱を燃やしています。